

「脆弱性骨折の二次予防を目指した、橈骨遠位端骨折患者の体幹バランスへの介入」  
(承認番号：M2000-1887、研究実施期間：2014-2020 年)にご参加いただいた方へ

**研究科題名：**「頸椎症における特徴的な動作の解析」

**研究対象者：**「脆弱性骨折の二次予防を目指した、橈骨遠位端骨折患者の体幹バランスへの介入」の研究にご協力いただいた方

### 研究協力をお願い

東京医科歯科大学整形外科において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の歩行解析のデータを用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（5）の問い合わせ先へご連絡ください。

#### （1）研究の概要について

承認番号：M2019-047-02

研究期間：医学部倫理審査委員会承認日から西暦 2027 年 3 月 31 日

研究責任者：東京医科歯科大学 オープンイノベーションセンター 医療デザイン部門  
教授 藤田浩二

本研究は東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会の承認及び機関の長の許可 を得て実施されています。

#### （2）研究の意義、目的について

頸椎症では、手指の細かい動作が困難となる巧緻運動(こうちうんどう)障害や、ふらつきが強くなる歩行障害といった症状が出現します。現在は医師が観察することで主観的な評価が行われており、症状の程度を客観的に評価することが困難です。本研究

ではセンサーを用いて簡単な検査をすることで、症状の程度を数値化し客観的な評価を得ることを目的としています。

### (3) 利用する情報について

「脆弱性骨折の二次予防を目指した、橈骨遠位端骨折患者の体幹バランスへの介入」の研究で得た健常者の Time up and go テスト施行時の歩行解析データ

### (4) 研究資金および利益相反について

本研究は JST の PRISM 研究予算からの補助金、JA 共済総合研究所からの寄付金を用いて行われます。本研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか、研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問を第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

### (5) 問い合わせ等の連絡先：

研究者連絡先：東京医科歯科大学

オープンイノベーションセンター 医療デザイン部門 教授 藤田浩二

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

03-5803-5279 (ダイヤルイン) (対応可能時間帯：平日 10:00～17:00)

苦情窓口：東京医科歯科大学医学部総務掛

03-5803-5096 (対応可能時間帯：平日 9:00～17:00)

※他の研究参加者の個人情報や研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画書や研究の方法に関する資料を閲覧することができます。ご希望の際は、上記の研究者連絡先までお問い合わせください。